

## 日韓印刷学術・文化交流 27年の潮流

国際印刷大学校学長・九州産業大学名誉教授  
工学博士 木下 堯博

1980年7月、釜山工業専門大学校（現在、釜慶大学校）印刷工学科設立を記念し、故金成根主任教授の招待により、千葉大学角田隆弘名誉教授と著者らが同大学とソウル印刷工業組合の2会場で記念講演を行った。これが著者の最初の韓国訪問であった。海外渡航による調査研究活動は22ヶ国・43回のうち、韓国が過半数を占め、次いでドイツ6回、アメリカ6回の順になっている。

その中で2001年6月に中部大学校で開催された韓国印刷学会国際交流招待講演ではモスクワ印刷大学のチガネンコ学長との出会いがあった。ベルリンの壁が崩壊する以前は東側との接触がまったく無く、1964年ハイデルベルグ大学に留学した時、チェコの印刷機械メーカーの研究所を訪問した程度であった。Cedock 国営旅行社の指定した Hotel に宿泊し、あまり自由度はなかった。しかし、今日では EU 加盟が東側を含め25ヶ国となり、学術・文化交流が活発になって来た。

2006年6月26日から30日までロシアの Saint Petersburg で SPb State University と TAGA（アメリカ印刷学会）との共催で「Printing Technology SPb'06」の学術講演会が開催された。参加国は16ヶ国で発表件数55件うちロシア15件、アメリカ8件、ドイツ5件で日本からは東京工芸大学と水上印刷(株)の共同研究で「カラーブルーフの感応テスト」、九州産業大学の「インキ転移における空隙」の2件が発表された。韓国からは Chung-Ang 大学の「インキジェット印刷の解像力」の研究報告があった。

また、2006年10月11日、東京で第7回ポルフ国際会議（7th International PPORF Conference, PPORF(Practical Program of Revolutions in Factories)）が開催され、南アフリカ、ドイツ、ニュージーランド、イギリス、ロシア、クロアチア、フィリピンの各国の発表に日本から水上印刷(株)の「能率管理による生産性向上」などの報告があった。翌日、水上印刷(株)多摩工場の見学会が行われ、同社の国際的躍進はめざましい。

2006年9月29日、水上印刷(株)（M）と韓国の(株)斗山印刷（D）はコラボレーション（MDC）の調印を行った。今後は相互に最新技術を積極的に導入し、経験の共有を積上げ、その成果を公開し、Only One、No.1の企業になるよう、研鑽努力を積み重ねることが大切であろう。著者はこのMDCの充実と発展及び東アジアにおける産学官の「印刷学術・文化拠点の構築」を目標として活動していく予定である。皆様方のご支援・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

**MDC Report 創刊号原稿（2006年10月26日記）**

40字×28行=1120字